

# 2026/27シーズンの 季節性インフルエンザワクチン及び 新型コロナワクチンの供給等について

厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部  
予防接種課

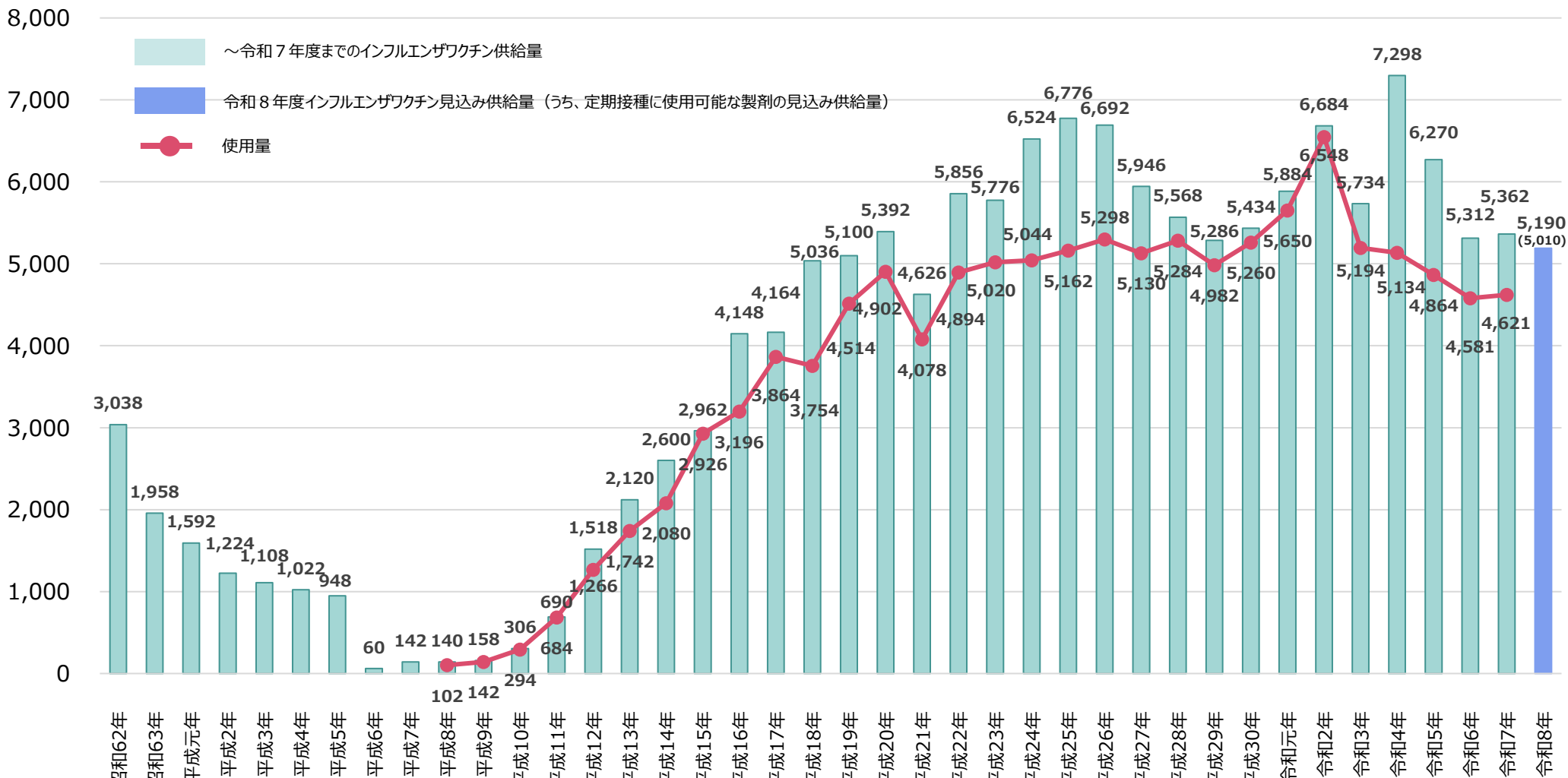
## 本日の内容

1. 季節性インフルエンザワクチンの供給等について
2. 新型コロナワクチンの供給等について
3. 各ワクチンの供給等に係る対応について

# インフルエンザワクチンの供給量の年次推移

○ 2026/27シーズン（令和8年度）のワクチンの供給量は、約5,190万回分となる見込み。

万回分【令和8年8月時点】



※1 平成7年以前の使用量は不明 ※2 使用量は医療機関への納入数量を基に算出

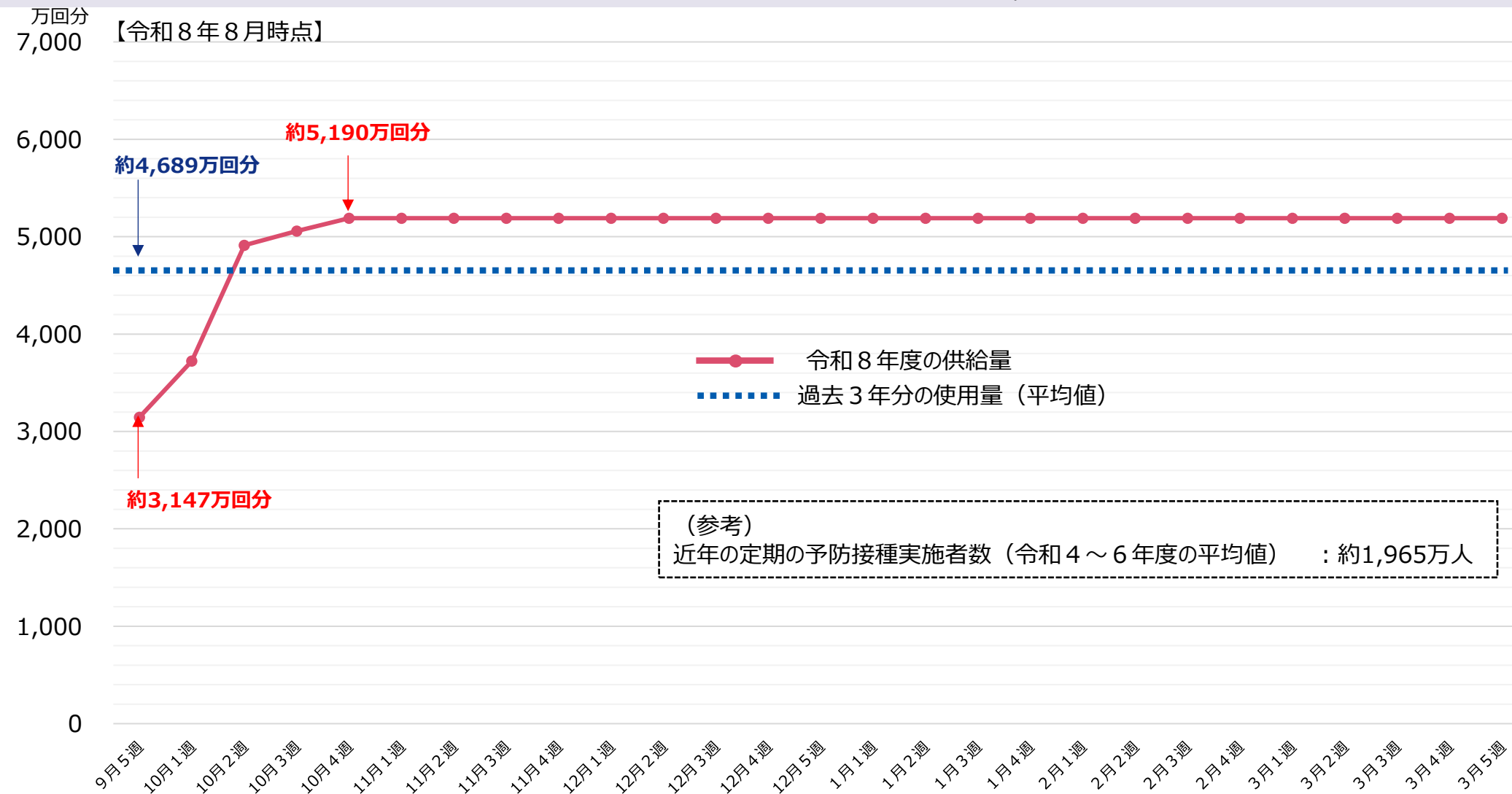
※3 供給量はインフルエンザHAワクチン 0.5 mL/回換算、経鼻弱毒生インフルエンザワクチン 0.2mL/回換算の合算

※4 平成27年度から令和6年度は、4価インフルエンザHAワクチンが供給されていたが、令和7年度からは3価インフルエンザHAワクチンが供給されている

# インフルエンザワクチンの累積供給量（週次）

○ 9月5週時点で、2026/27シーズン（令和8年度）の供給量の6割を超える約3,147万回分が出荷される見込み。

【令和8年8月時点】



注1) 供給量は、インフルエンザHAワクチン 0.5 mL/回換算、経鼻弱毒生インフルエンザワクチン 0.2mL/回換算の合算

注2) 週の表示は金曜日を基準としている（例：9月5週は、10/2時点の供給量を示している）

注3) 使用量は医療期間への納入数量をもとに算出

(参考) 定期の予防接種実施者数（厚生労働省）

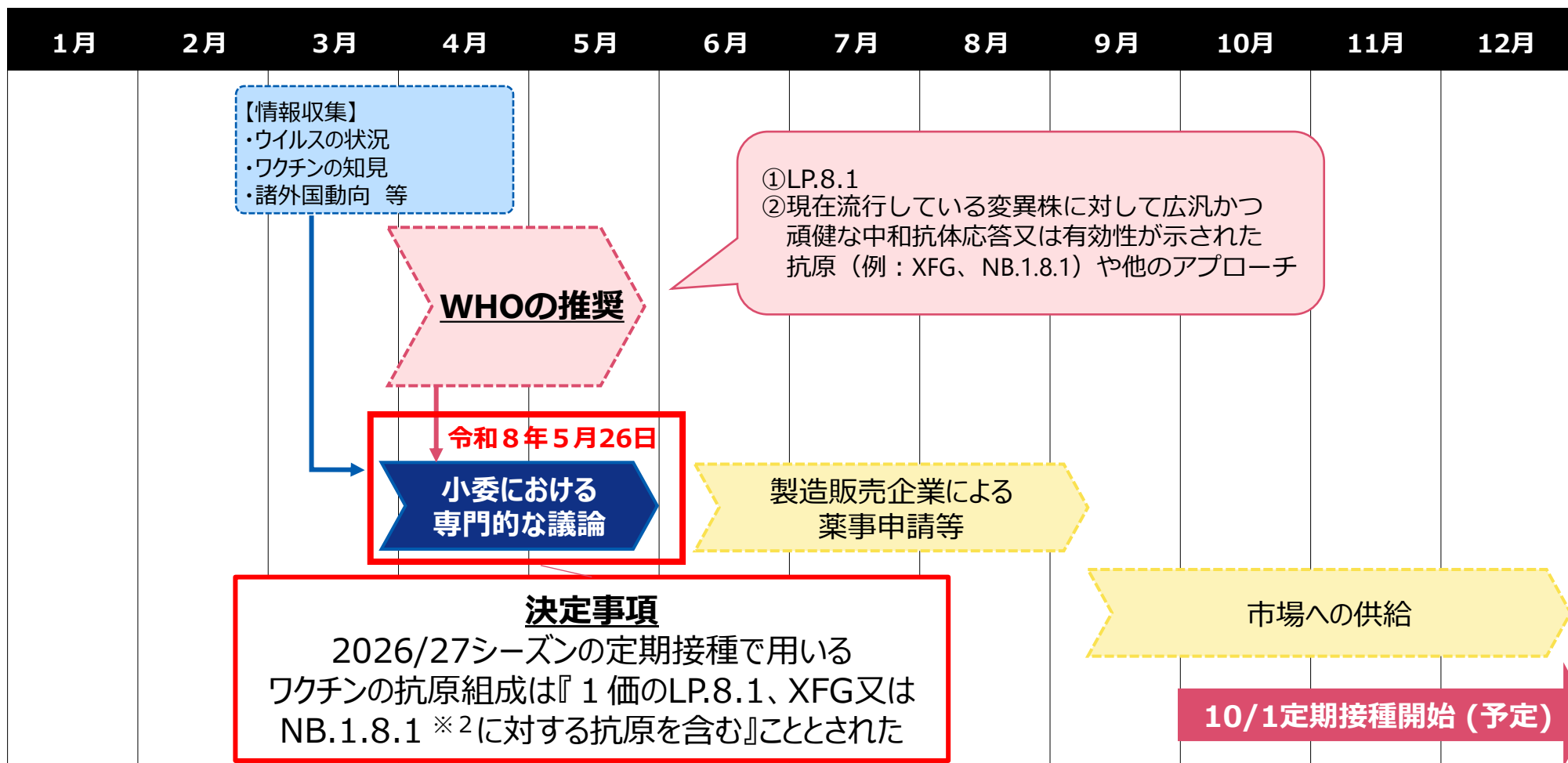
## 本日の内容

1. 季節性インフルエンザワクチンの供給等について
2. 新型コロナワクチンの供給等について
3. 各ワクチンの供給等に係る対応について

# 2026/27シーズンの新型コロナワクチンについて

- 2026/27シーズンの定期接種に用いるワクチンの抗原組成は、令和8年5月の審議会（※1）で『1価LP.8.1に対する抗原又は令和8年5月現在流行している変異株に対して、広汎かつ頑健な中和抗体応答又は有効性が示された抗原』に該当するとして、我が国で使用するワクチンの抗原組成に含める』こととされた。現在、各製造販売企業において、開発・薬事手続きが進められている。
- 薬事承認や供給の見通しを踏まえ、10月1日から定期接種を開始する方向で準備を進めている。

※1 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 研究開発及び生産・流通部会 季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチンの製造株について検討する小委員会



※2 令和8年5月現在流行している変異株に対して、広汎かつ頑健な中和抗体応答又は有効性が示された抗原に該当するとして、我が国で使用するワクチンの抗原組成に含めることとされた

# 新型コロナワクチンの見込み供給量（2026年8月25日時点）

○ 2026/27シーズン（令和8年度）のワクチン供給量は、約702万回分となる見込み。

| 企業名        | ファイザー株式会社 | モデルナ・ジャパン株式会社 | 第一三共株式会社           | Meiji Seikaファルマ株式会社 | 武田薬品工業株式会社           |
|------------|-----------|---------------|--------------------|---------------------|----------------------|
| 販売名        | コミナティ®    | エムネクスパイク®     | ダイチロナ®<br>(薬事手続き中) | コスタイベ®<br>(薬事手続き中)  | ヌバキソビッド®<br>(薬事手続き中) |
| 抗原組成       | オミクロン株XFG | オミクロン株XFG     | オミクロン株NB.1.8.1     | オミクロン株NB.1.8.1      | オミクロン株XFG            |
| モダリティ      | mRNA      |               |                    | mRNA（レプリコン）         | 組換えタンパク              |
| ワクチン見込み供給量 | 約548万回    |               |                    | 約52万回               | 約102万回               |
| 合計 約702万回  |           |               |                    |                     |                      |

（参考） 令和7年度の新型コロナワクチンの使用量 約403万回（医療機関への納入数量を基に算出）

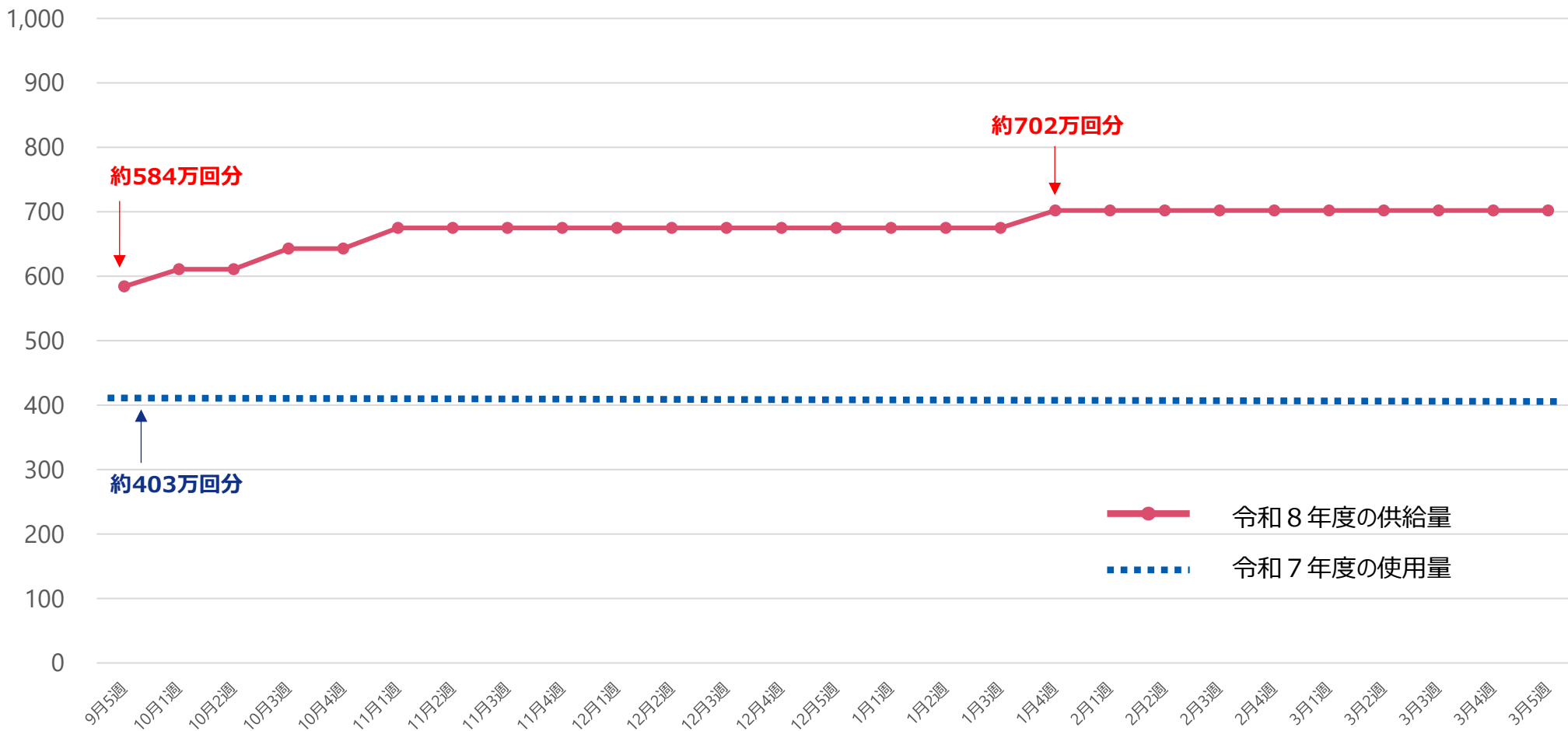
注： 2026/27シーズン（令和8年度）の新型コロナワクチンの供給を見込む各企業からのヒアリング情報をもとに作成。一部の医薬品については、薬事手続き中であり予定の情報である。

# 新型コロナワクチンの累積供給量（週次）

○ 9月5週時点で、2026/27シーズン（令和8年度）の供給量の8割を超える約584万回分が出荷される見込み。

【令和8年8月時点】

万回分



注1：週の表示は金曜日を基準としている（例えば、9月5週は、10/2時点の供給量を示している）

注2：2026/27シーズン（令和8年度）の新型コロナワクチンの供給を見込む各企業からのヒアリング情報をもとに作成。一部の医薬品については、薬事承認申請中であり予定の情報である。

注3：使用量は医療機関への納入数量を基に算出

## 本日の内容

1. 季節性インフルエンザワクチンの供給等について
2. 新型コロナワクチンの供給等について
3. 各ワクチンの供給等に係る対応について

# 2026/27シーズン（令和8年度）の 季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチンの供給等に係る対応

## 季節性インフルエンザワクチンの供給について

- 2026/27シーズン（令和8年度）のワクチンの供給量は、約5,190万回分となり、近年の平均使用量を超える供給量となる見込み。

## 新型コロナワクチンの供給について※

- 2026/27シーズン（令和8年度）のワクチンの供給量は、約702万回分となり、昨年度の使用量を超える供給量となる見込み。
- ワクチンのモダリティは、mRNA、mRNA（レプリコン）、組換えタンパクが供給される予定。
- ワクチンの抗原組成は、1価のXFG対応ワクチン、1価のNB.1.8.1対応ワクチンが供給される予定。

※新型コロナワクチンの供給については、株変更に係る薬事手続きが完了することが前提となる。

## 季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチンの対応について（案）

- 季節性インフルエンザワクチンについて、2026/27シーズンは近年の使用量を超える供給量が見込まれていることから、ワクチンを適切に使用すれば不足は生じない状況と考えられる。
- 新型コロナワクチンについて、2026/27シーズンは昨年度の使用量を超える供給量が見込まれていることから、季節性インフルエンザと同様に、ワクチンを適切に使用すれば不足は生じない状況と考えられる。
- これは例年実施しているワクチンの効率的な使用が前提となっていることから、今年度も、ワクチンの効率的な使用等について医療現場へ働きかけを行うこととしてはどうか。

（参考：昨年度の取組）

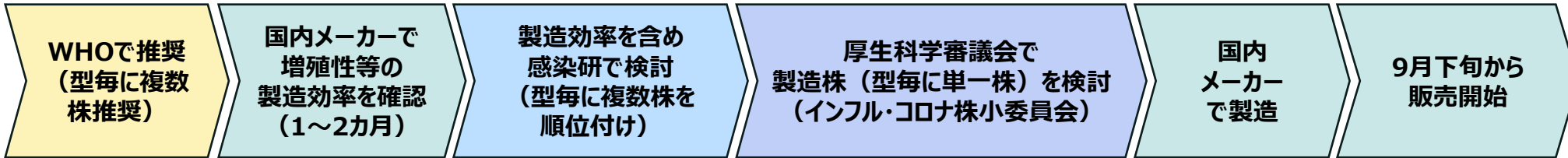
- 季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチンの効率的な使用と安定供給を推進するため、
    - ・ 同一バイアルから複数回の使用が可能とされている製品については、ワクチンの取扱い上の注意等に留意し、効率的な使用に努めること
    - ・ ワクチンの供給ペース、昨年度の使用実績を踏まえ、必要量に見合う量のワクチンを購入いただくこと
- などについて、医療機関に要請する等の取り組みを行った。

## 参考資料

# 2026/27シーズン向け インフルエンザHAワクチン製造候補株

- WHO推奨について、3株（A型H1N1、A型H3N2、B型ビクトリア系統）とも2025/26シーズンから変更となった。

基本的な流れ



WHOの推奨については、例年並みの2026年2月27日に公表され、3株すべてが2025/26シーズンから変更となった。

| 亜型            | WHOの推奨の概要※1                                            | 国立感染症研究所による推奨                     |
|---------------|--------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| A型<br>H1N1    | A/Missouri/11/2025 (H1N1)pdm09-like virus              | A／スイス／6849／2025 (IVR-278) (H1N1)  |
| A型<br>H3N2    | A/Darwin/1454/2025 (H3N2)-like virus                   | A／ミシガン／105／2025 (SAN-049A) (H3N2) |
| B型<br>ビクトリア系統 | B/Tokyo/EIS13-175/2025 (B/Victoria lineage)-like virus | B／東京／EIS13-175／2025 (ビクトリア系統)     |

※1 [Recommended composition of influenza virus vaccines for use in the 2026-2027 northern hemisphere influenza season](#)

※2 WHOの推奨について、2026/27シーズンはB型山形系統の記載はなし。

# インフルエンザHAワクチン製造候補株の製造効率について

2026（令和8）年5月26日

- 製造効率については、前年度比0.79～1.28倍の製造効率となり、合計として1.06倍の製造効率となった。

## 【ワクチン製造量（本）の推計方法のイメージ】

製造量（本）＝ 各製造株の製造効率（μgHA/卵）×有精卵（個）／（15 μgHA/本）

1株当たりの有効成分量

有精卵1個から産生される有効成分量

有精卵の数もワクチン製造量に影響する

|                                            | 製造効率※1（μgHA/卵） |                        |
|--------------------------------------------|----------------|------------------------|
|                                            | 2025/26シーズン実績  | 2026/27シーズン<br>（対前年度比） |
| A型H1N1（変更あり）：<br>A/スイス/6849/2025（IVR-278）  | 47.4           | 60.9（1.28）             |
| A型H3N2（変更あり）：<br>A/ミシガン/105/2025（SAN-049A） | 59.8           | 66.6（1.11）             |
| B型ビクトリア系統（変更あり）：<br>B/東京/EIS13-175/2025    | 48.3           | 38.0（0.79）             |
| 合計                                         | 155.6          | 165.5（1.06）            |

※1 製造効率は、インフルエンザHAワクチンを製造販売しているKMバイオロジクス、デンカ、阪大微研3社の平均値にて算出

# 2026/27シーズンの定期接種で使用する新型コロナウイルスワクチンの抗原組成について

|                                                                                     |                |
|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 第4回厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会研究開発及び生産・流通部会<br>季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナウイルスワクチンの製造株について検討する小委員会 | 資料<br>1<br>(改) |
| 2026（令和8）年5月26日                                                                     |                |

## WHOの推奨

- 令和8年5月に開催されたTAG-CO-VAC（Technical Advisory Group on COVID-19 Vaccine Composition）において以下が推奨された。
  - ・ 1価のLP.8.1をCOVID-19ワクチン抗原として推奨する。
  - ・ 現在流行しているSARS-CoV-2変異株に対して広汎かつ頑健な中和抗体応答又は有効性が示された抗原（例：XFG、NB.1.8.1）や他のアプローチも考慮される。

## 国立健康危機管理研究機構からの情報

- 我が国において現在流行している新型コロナウイルスの変異株は、NB.1.8.1系統及びBA.3.2系統の割合が多いことが報告された。

## 製薬企業の報告

- 製薬企業から、各社のメッセンジャーRNAワクチン又は組換えタンパクワクチンについて、新たな抗原組成のワクチンの開発状況等が報告された。

### ●非臨床データ（※1）

- ・ JN.1系統ワクチン（LP.8.1ワクチン、XFGワクチン、NB.1.8.1ワクチン）：初回・追加投与いずれにおいても、各ワクチンはJN.1系統（LP.8.1、XFG、NB.1.8.1）に対して抗体を誘導した。（※2）
- ・ BA.3.2.2系統ワクチン：初回・追加投与いずれにおいても、BA.3.2.2系統に対して抗体を誘導した。

### ●臨床データ（※3）

- ・ LP.8.1等を抗原とするワクチンの接種によって、JN.1系統（LP.8.1、XFG、NB.1.8.1）及びBA.3.2系統に対して抗体を誘導した。

※1 追加免疫試験において、基礎免疫に用いられたワクチン（従来型ワクチン又はオミクロン株成分を含むワクチン）は、製薬企業によって異なる。  
※2 非臨床にてJN.1系統（LP.8.1、XFG、NB.1.8.1）を抗原とするワクチンを投与した際の、BA.3.2系統に対する免疫応答は製剤ごとで異なる結果が示された。  
※3 XFG及びNB.1.8.1を抗原とするワクチンについて、ヒト血清を用いたBA.3.2系統に対する検討結果は示されていない。

## 決定事項

- WHOの推奨、我が国の各系統の検出状況（NB.1.8.1系統及びBA.3.2系統が多くを占めること）、企業から提出されたLP.8.1、XFG、NB.1.8.1及びBA.3.2.2ワクチンの中和抗体応答に係るデータを踏まえ、
- 令和8年度の定期接種において使用するワクチンの抗原組成について、「1価のLP.8.1をCOVID-19ワクチン抗原とする」こととする。また、その他の抗原（例：XFG及びNB.1.8.1）についても、「令和8年5月現在流行している変異株に対して、広汎かつ頑健な中和抗体応答又は有効性が示された抗原」に該当するとして、我が国で使用するワクチンの抗原組成に含めることとする。
  - 現時点で、JN.1系統（LP.8.1、XFG及びNB.1.8.1）ワクチンの他のSARS-CoV-2変異株に対する効果の検討状況は製剤により異なっており、いずれの抗原組成のワクチンについても臨床データは限定的であることから、引き続き情報収集を求めることとする。

# 新型コロナウイルスワクチンの抗原株の変更に係る取扱いについて

薬事関係の申請資料や具体的なスケジュール等については医薬局医薬品審査管理課長及び監視指導・麻薬対策課長の2課長通知※<sup>1</sup>で示されている。また、医薬品等変更計画確認申請（PACMP制度）を利用する際の概要について、医薬局医薬品審査管理課長通知※<sup>2</sup>に示されている。通知等で示されている概略は以下のとおり。

## 抗原株の変更のための薬事手続きの概要

- **新型コロナウイルスワクチンの抗原株を変更する場合には、一変承認を受ける又はPACMP制度による変更計画に従った変更に係る届出を行う必要がある。**

|           | 迅速な株変更一変申請                                                                                                                                                                                                                 | 株変更PACMP制度                                       |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 対象となる製剤   | 2課長通知の（3）に該当する製剤（過去の株変更一変において抗原株の変更が認められた本邦既承認のワクチンのうち、抗原株の変更によりその品質及び安全性が株変更の影響を受けない蓋然性が高く、免疫原性が非臨床試験によって予見できるワクチン）                                                                                                       |                                                  |
| 申請タイミング   | 遅くとも6月末まで                                                                                                                                                                                                                  | －                                                |
| 申請資料      | ・抗原株の免疫学的特性に関する資料（例：ワクチンの非臨床試験における免疫原性のデータ等）<br>・抗原株変更後の製品品質に関する資料（例：ワクチンを製造する際の鋳型 DNA、セル・バンク及びウイルス・シードの管理試験結果、原薬及び製剤等を製造した際の特性解析、原薬及び製剤のロット分析結果（実生産を反映するロットの規格試験の成績等）並びに安定性データの取得予定等）<br>・その他厚生労働省及び PMDA との協議の上で必要とされた資料 |                                                  |
| 標準的事務処理期間 | 2か月                                                                                                                                                                                                                        | 変更計画の確認申請：6か月<br>計画に従った変更の届け出：40勤務日（特定の場合は20勤務日） |

- **国家検定に用いる試験試薬の事前検査結果に関する報告資料、試験試薬の送付【JIHSより指定された期日まで】。**
- **JIHSに製造・試験記録等要約書様式（SLP様式）の作成や変更の申請【出検を行う年の1月中を目途】。**
- **国家検定の出検スケジュール・出検計画の提出【JIHSより指定された期日まで】。**

※1 新型コロナウイルスワクチンの株の変更に係る取扱い等について（通知）（令和6年5月23日付け医薬薬審発0523第1号、医薬監麻発0523第3号厚生労働省医薬局医薬品審査管理課長、監視指導・麻薬対策課長連名通知）より抜粋・要約  
※2 インフルエンザワクチン及び新型コロナウイルスワクチンの株変更に係る変更計画の確認申請等の取扱いについて（令和7年10月3日付け医薬薬審発1003第1号、厚生労働省医薬局医薬品審査管理課長通知）より抜粋・要約

